

あります。更に観音山丘陵の尾根続きには、茶臼山城・根小屋城・山名城（寺尾下城）へと続いていきます。

山名八幡宮

永福寺からバスで観音山丘陵沿いに5キロ程南に進むと山名氏の氏神である山名八幡宮へと至ります。旧山名会時代の平成4年・平成12年の2回、群馬で山名会総会を行った折には、八幡宮の一室をお借りして行事を行ったようですが、あいにく七五三シーズンと重なり、今回は自由参拝の形でお邪魔しました。



平成の始めに一族会有志が協力して奉納した神馬像

境内をゆっくりとお参りさせていただいた後は、山名会有志が30年前に奉納した神馬像の前で記念写真を一枚撮影して、次の山名城址へと向かいました。

山名城址

山名城址は前述のごとく観音山丘陵の南端、山名八幡宮の裏手に位置する小高い山城です。近くにはユネスコの「世界の記憶」に指定された「上野三碑」

の一つ「山上碑」が有り、最近ではそちらの方が注目を浴び、山名城の存在は忘れられているような感じで少し残念でした。落ち葉が積み重なった登城道

を上がること10分程で山名城の本丸跡に上がって来られるのですが、周囲は大きくなりすぎた雑木が視界を遮り、展望台に上がった後も残念ながら全く視界が開けません。木々の隙間越しに高崎の市街地などが見えましたので、昔は結構見晴らしが良かったのでは無いかかと思えます。

光臺寺

光臺寺は山名氏が初代から八



光臺寺の本堂前での記念写真



職さんご同席の元、小池住職さんご同席の法要を行いました

代まで過ごした山名居館跡に建つ寺院と言われます。江戸時代はこの地で栽培された光臺寺菘が將軍への献上品として重宝されていたとか。

こちらでは光臺寺の檀家の方々もご同席の上、ご任職に山名氏歴代の供養と山名会の発展祈願の法要を勤めていただきました。

また、法要後には光臺寺のお檀家で高崎商科大学の特認教授である熊倉浩靖先生に、飛鳥、奈良時代に渡来人によって上野の地に建てられた「上野三碑」の歴史的価値について詳しくお教えいただき、山名・新田氏がこの地に入って来るずっと以前から、この地域は文化的にも開かれていた地であったと実感できました。

年次総会・懇親会

講演の後は光臺寺の本堂を少しの間拝借して、山名会の年次

総会を行いました。総会については、総会報告のページをご覧ください。

総会終了の時間には、すっかりと日も落ちてしまいました。宿泊場所は翌日の行事に備えて、太田市の藪塚温泉としましたので、光臺寺からバスで40分程の道のりを藪塚温泉へと向かいました。

藪塚温泉は奈良時代開湯の歴史ある温泉で、新田義貞の秘湯とも呼ばれます。こちらの旅館に宿を取り、懇親会の席では、総会の時間中に十分相談が出来なかつた来年度の活動計画等について意見を交換し、その後もゆっくりと名湯につかりながら山名会の将来像について、ご意見を頂戴しました。

第2日目（11月11日）

第2日目は太田市内の新田氏ゆかりの史跡を巡る計画で、新田氏史跡ガイドの北村さんと太田市教委の元・文化財課長の宮田さんに当日の訪問先の選定からご案内までの全てをお世話になりました。（尚、お二人とは山名氏史料館を見学に来られたご縁で、今回のご無理を引き受けていただけました。この場を借りまして、ご協力に深く感謝申し上げます。）



太刀を頂く二代目の新田義貞像。初代は盗難にあって行方不明。人々の協力で再建される。

生品神社
 最初の見学先は新田義貞が鎌倉倒幕の旗揚げをした生品神社で、宮田さんの車の先導に従い、バスの中では北村さんが事前の解説をしていただきながら神社へと向かいました。

神社の境内入り口には太刀を頂く義貞像が参拝者を迎え、広葉樹の多い参道を宮田さんの案内で拝殿へと進んでいきます。義貞の挙兵の地ですから、大きな神社を想像していたのですが、着いてみれば小ぢんまりとした普通の神社で、少し意外な気持ちになりました。

言い伝えでは、義貞が生品神社で挙兵したおりに、騎馬武者150騎程（従者をいれるとその数倍）であったが、鎌倉に向かう途中で知らせを聞いた新田の流れを汲む里見一族等や、足利の嫡男である千寿王が、こ

れに加わり義貞の軍勢は爆発的に増えて、最終的には20万騎に達したとも言われます。普段は静かな境内なんでしょうが、当日は近所の氏子さん総出で冬を迎える前の清掃をなさっておられました。

円福寺

次は新田氏4代義政が開いた円福寺に向かいました。古墳や幼稚園等が隣接する境内の一角に、新田氏歴代の石塔が20基余り整然と並んで居り、この地を治めていた新田氏の隆盛を感じさせる史跡でした。

金龍寺・金山城

次は太田市内に向けてバスを走らせて、金龍寺と新田金山城へと向かいました。

金龍寺は新田氏の流れを汲む横瀬氏が菩提寺として寺を開き、お寺の裏手には一族を祀る9基の供養塔があり、その中央にある一回り大きな供養塔は、江戸時代の義貞公三百回忌法要の際に建立されたものらしいです。

こちらの供養塔では、塔の前に進んでお線香を捧げさせていただけました。また、金龍寺のご住職からは、新田義貞に関する研究誌を事前に届けていただきました。参加者に貴重な資料を配れましたことを感謝申し上げます。

金龍寺の背後にある金山城は



地形模型で歩んできたところの天然の要害と確認する。元々、天然の要害と確認する。

標高250メートル程の山城ですが、麓からの登りは急斜面でバスはつづら折りの坂道を登らねばなりません。山上駐車場までバスを降りて、そこから宮田さんの案内に従い尾根に沿って本丸を目指して歩くと、北側（搦手）は落差数十メートルの崖が城壁代わりをし、南側（追手）は上からの見通しが利く斜面で、この場所が天然の要



虎口で説明を聞く参加者。石垣・敷石が見事に配されている。

害であることが感じられます。この地は険しいだけでは無く、城内には山頂に近いにも関わらず月池・日池が常に水をたたえて、この城の神秘性を高めています。

地形を巧みにいかした曲輪や堀切、土塁等で防御を固めて敵の侵入を阻み、敵を追い詰める虎口周辺は遠近法も取り入れた作りで、石垣の造形が見事でした。

世良田東照宮・長楽寺

午後からは山名義範の弟である世良田（得川）義季が開いた長楽寺と世良田東照宮がある新田荘歴史公園に向かいました。

徳川家康は世良田（得川）義季を徳川氏の太祖と崇めて、世良田の地を徳川氏発祥の地と定め、長楽寺を再興させて歴代の供養塔などを整備して盛大に祀りました。また徳川三代家光は、



長楽寺内にある文殊山中世石塔群。得川義季等の墓石と伝えられる。



満徳寺裏手の畑の中にある石塔。新田義重夫婦の墓と伝えられる。

徳川・満徳寺跡

最後の訪問先は、縁切り寺の満徳寺跡にある新田義重夫妻の墓と伝えられる供養塔に向かいました。

新田義重は兄弟の中で義季を一番可愛がり、晩年は義季の館に共に住み、没後は邸内に作られた墓に葬られたと言われます。満徳寺は新田(世良田)義季が創建し、娘を初代の住持として寺を持たせると言うことで、今では広々とした畑が広がっています。



縁切り寺・満徳寺で千姫の言い伝えについて耳を傾ける。

かつている寺の裏手ですが、その昔は義季の居館も満徳寺に隣接したこの地に有ったのだと思われまます。

昔の人のお墓と言うものは同一人物でも各地に有るものですが、奇しくも今回の史跡探訪では、高崎市にある義重のお墓で始まり、太田市にある義重夫婦のお墓で行事を終える形となりました。

史跡ガイドのお二人とは、満徳寺でお別れをし、バスは予定通りにJR熊谷駅に3時前に到着して、無事に行事を終了することができました。

今回の行事では、1日目には光臺寺のご住職に、山名氏歴代の供養と熊倉先生のご講演のお世話だけでなく、檀家さんにも声を掛けていただき、賑やかに我々をお迎えいただきました。また、2日目には、北村さんと

新会員のご紹介

地域	お名前
向日市	山名 繁様 (旧山名会からの再入会)
名古屋	山名俊介様 (山名大介様ご紹介)
埼玉県	山名美和子様 (山名晶子様ご紹介)

宮田さんに、時間配分まで考えた上で丁寧にあなただき、大変に有り難かったです。

その他、多くの協力者のお陰で1泊2日の山名会行事が充実した内容となりました事、お礼申し上げます。

次回総会の時も、面白い歴史探訪が出来るよう心がけたいと思います。

年会費納入お願いします

平成30年6月以降、右記の三方が入会いただきました。今後ともどうかよろしくお願い致します。

会計年度も改まりましたので、年会費のご納入をお願い致します。

年会費は五千円です。該当会

員様には郵便振替伝票を同封しております。ご利用の上、ご入金お願い致します。(特別会員・家族会員等除く)



編集後記

ここ数年、講演会を中心とした日帰りの総会行事が続いて居り、久々の史跡探訪を交えた行事。また、遠方群馬での泊まりがけの行事開催で不安でしたが、役員様はじめ、多くの皆様のご協力により、スムーズにそして有意義に1泊2日の行事を終えることが出来て、ほっと一息ついています。

年一度の総会以外にも、様々な行事を計画して、もっと活発に活動が出来ればとは思っておりますが、現状ではとてもそこまで対応は出来ておりません。

一般社団法人化の話もあります。総会が唯一の活動と言うところから、一歩踏み出してこそ法人化と釣り合うような気が致します。

平成31年度は活動内容についても、検討を進めたいと思います。

(事務局)